

更生施設 淀橋荘 保護施設通所事業 (定員：通所33人・訪問2人) [平成29年度事業報告]

1 事業総括

定員35名に対する月初充足率は72.1% (平均24.2名) で、昨年度実績85.4% (平均29.9名) から大きく減少した。新規開始者数は16名と前年度より1名減。これは前年度と同じく更生施設退所者のうち「居宅移管」退所が減少していることも影響している。

淀橋荘では更生施設退所者だけでなく、宿所提供施設退所者についても通所事業の対象者として継続支援を行っているが、今年度の新規利用開始者は2名となっている。女性指導員を担当にして引き続き利用拡大を図る必要がある。

淀橋荘では所内作業を単なる就業の場ではなく、生活の安定維持のための通所事業の重要なプログラムとして位置付けているが、一部受託作業については通所事業終了時に利用者直接契約に切り替えることができた。年間の稼働日数は前年度同様の作業量と総収入をほぼ維持できており、延べ作業人員も前年度同様の水準であった。

地域貢献の一環として実施しているOB支援事業は来年度に向けて見直しを行い、15名から年度末に2名となった。

	定員		29年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						28年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						
	通所	訪問	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	33人		25	22	22	24	23	24	25	26	27	25	25	24	24.2
訪問		2人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0

2 主要目標に対する成果

(1) 所内作業プログラムに加え、淀橋荘の外構清掃、宿所提供施設等の居室清掃を実施し、より多様な就労機会を用意した。また、作業参加者が日々の作業結果や感想を記載する「作業ノート」を活用し、施設との意見交換や作業の達成感をより獲得しやすくする工夫を継続して行っている。

(2) 絵画教室では作成した作品の館内展示を行い、参加者の意欲の向上や結果に関する達成感の獲得を図った。また、歌声喫茶では合唱の選曲を多様にし、気軽に参加できるようになっている。

(3) 健康増進及び利用者間の一体感の向上を目的としたスポーツ行事として、ボウリングや懇談会前のストレッチを実施し、年齢や健康面の理由によりこもりがちになりやすい利用者に対し、無理のない範囲で運動ができるようにした。

(4) 地域福祉へ貢献するよう、居宅生活者の金銭管理や宿提女性利用者への継続的な就労支援等、ニーズに応じて地域枠を活用した。

3 運営管理

- 定期的に行われる懇談会を通所事業利用者とOB支援事業利用者とに分けて実施。双方それぞれから忌憚のない意見を汲み取れる環境を整えた。
- 女性利用者については、宿所提供施設の行事参加を軸とし、就労支援や食事サービスの利用等を組み合わせ、通所担当者と入所時の担当者(宿提)が連携しながら対応した。また、安否確認に携帯電話やメールを用いるなど柔軟な方法を用いて支援している。
- 継続的な安否確認が、利用者にとっての安心感の根拠になっており、体調不良時の緊急対応の結果、福祉事務所等との関係機関と連携、状況に応じた支援体制の構築が可能となった。
- 所内作業も定期的に作業が入っており、安定した作業機会を継続的に参加者に提供することが出来た。
- 作業スペースについては、前年度より利用者の意見に基づいた環境改善を継続的に図り、給湯器の設置を行った。30年度以降も参加者の意見も踏まえたくて休憩室等の環境改善を計画的に実施する。